

国立市平和都市条例のための 直接請求に参加して

東京都国立市在住長谷川隆久さん

本年3月末、定年退職した六九歳の元フランス語の教師です。在職中の40年間、職場を風通しの良い、誰でも平気でものを言える場所にしたいと頑張ってきました。30人規模の小さな世界ですが、それなりの成果があがり、もうお役ごめん、疲れ、退職後は、悠々自適の生活をしようと思っていました。地域の運動とのつながりは、皆無でした。

この発想に、配偶者ともども魅せられてしまいました。残された老後のエネルギーを傾けるのに「これは、いいかも」という思いでした。

3年前に、長年住み慣れた八王子から、国立に引っ越してきて、事情ががらりと変わりました。配偶者が、地域のさまざまな市民活動に参加する中で、昨年「非戦のまちくにたち」の北原久嗣さん、家坂平人さん、中川英明さんという素晴らしい人たちに出会ったのが、転機です。自治体の条例という形で、9条のめざす平和を具体的に作る

4月22日から始まった署名活動のために、悠々自適の生活は雲散霧消し、連日、街頭に立つ日々が続きました。夫婦でやっているの、冷蔵庫の中は、空っぽ、家の中はぐちゃぐちゃでしたが、在職中には、思いもしなかつた街頭で人々と話し合うという新しい経験、それは、地域の人々の中に分け入って、地域の新しい顔を発見する体験でもありました。

運動の仲間たちの顔も見えてきました。実践的に運動の先行きを見通す優れた洞察力を持つSさん、私よりも高齢にもかかわらず、仕事の合間に街頭に立

って通行する人への話しかけ方の模範を見せてくれたWさん、公園のお母さんたちに果敢にアタックして人々の心の中にするりと入るTさん、ためらう私に活を入れ、愛犬とともにガソリンスタンドにアタック、そこで働く人たちから署名を取ってしまつたNさん、窓一つない窒息しそうな事務所に一日座つて、チラシを折りながら電話の応対をしてくれたS夫人、夜の駅頭で年寄りの気持ち奮い立たせながら、街宣のリードをした20代のS、T、Iの皆さんや猫好きのOさん、紙数の関係で、名前を挙げられませんが、街頭に立つ私たちの姿を見て駆けつけて一緒に立つてくれた多くの

参加してくれた5104人と、拇印や生年月日がいやで署名はしなかつたけれど、心情的に応援してくれたもつと多くの人たち・・・。

今度は、この人たちが、あの街頭に立っていた顔の黒い白髪頭は、この後どうするんだ？」と私の顔を見つめていきます。もう、私には、悠々自適の生活は、なさそうです。

人たちが、更には、隣町から駆けつけてくれた若いSさん、市川市のHさん、荒川のTさん、藤沢のTさん、大阪から駆けつけてくれたOさん、市川の田口さん、日野の有賀さん、品川の佐藤さん、全国ネットの矢野さん、首都圏の国井さん、ああ、本当に紙数が足りない……こうして出会った多くの人たち、署名に

